

2023年1月11日

焼津水産化学工業株式会社
代表取締役社長
山田 潤 様

株式会社ナナホシマネジメント
代表取締役 松橋 理



PBR1倍を下回る企業を取り巻く厳しい議論の状況と貴社のPBR0.5倍という水準について

日本経済新聞は、株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）の「市場区分の見直しに関するフォローアップ会議（以下「フォローアップ会議」といいます。）」に関連し、PBR1倍を下回っている会社に対する厳しい見方を紹介しています⁽¹⁾。

また、2023年1月10日に開催されたフォローアップ会議の資料⁽²⁾によれば、実施時期2023年春の対応（案）として「①経営陣や取締役会において、自社の資本コストや資本収益性を的確に把握し、その状況や株価・時価総額への評価を議論のうえ、必要に応じて改善に向けた方針や具体的な取組などを開示することを要請—特に継続的にPBRが1倍を割れている場合など、明らかに改善が必要な会社に対しては、開示を強く要請（略）成長性が重視される②グロース市場については別途検討」（する）とのことです。

貴社の2023年1月11日現在のPBRは0.5倍です。貴社におかれては、東証から開示を強く要請されることを待たずに、下線部①の通り、株価の評価の改善策を開示していただきたいと存じます。また、貴社はスタンダード市場を選択しましたが、下線部②の通り、貴社がスタンダード市場上場企業だからといって、PBR1倍を下回っている状態が良しとされるわけではありません。

先日、弊社は、貴社の株主価値向上に向けたキャンペーンウェブサイトにおいて、貴社の株価のバリュエーションが著しく低く評価されている状況について、弊社が考える原因や解決策等をまとめました。しかし、貴社は、弊社からのキャンペーンウェブサイトに関する意見交換の要望を無視しています。是非、貴社の株価のバリュエーションの改善策を真剣に検討し、開示及び実践していただきたいと存じます。また、重ねてのお願いとなりますが、弊社との意見交換の場を設定していただきたくお願いいたします。

以上

¹ 例えば「「バンドラの箱」開けた東証 PBR1倍割れにメス」（日本経済新聞 2022年12月19日）

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK182VE0Y2A211C2000000/>

「23年、目覚めよ「万年割安株」 資産効率改善が本格化」（日本経済新聞 2022年12月30日）

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB300M30Q2A231C2000000/>

「PBR1倍割れに喝 日本株復活へ試される東証の本気」（日本経済新聞 2023年1月3日）

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD26B4T0W2A221C2000000/>

² 「論点整理を踏まえた今後の東証の対応（案）」スライド番号2ご参照。なお、本文引用部分の下線は弊社。

<https://www.ipx.co.jp/equities/improvements/follow-up/nlsgeu000006gevo-att/co3pgt0000005cca.pdf#page=3>